

第5回

室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会

会議録

開催日時 令和2年8月21日(金)10:00～

開催場所 室蘭市防災センター3階研修ホール

出席者 委員：亀田委員、吉田委員、森川委員、菊池委員、安部委員、
齊藤委員、石橋委員、西畑委員、山内委員
市側：杉本部長、北川課長、田所主幹、櫻井係長、
谷口主任、高桑主任、菊地主事、古道主事

議 題 ごみ処理・リサイクル事業の課題解決に向けた取り組みの実施状況について
室蘭市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて

傍聴者 市民2名、報道関係者2名

1. 報告事項

委員異動

解嘱	鈴木 勝己 委員	去る令和2年4月19日にご逝去されました。生前は本検討委員会にご尽力いただきましたこと深く感謝いたしますと共に、心よりご冥福をお祈りいたします。
委嘱	古藤 学 委員	人事異動に伴い、第5回あり方検討委員会より伊藤 正男委員から変更となりました。
解嘱	伊藤 正男 委員	人事異動に伴い、解嘱となりました。

次回開催

第6回室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会は令和2年11月の開催を予定

2. 提案された意見・方向性

室蘭市ホームページについて

- | | |
|--------------------|--------|
| ・捨てたい物の名称で検索できると便利 | 安部 委員 |
| ・見やすくする工夫が必要 | 吉田 委員長 |

生ごみ減量機について

- | | |
|------------------------|---------|
| ・減量効果があったため、ぜひ購入助成の検討を | 齊藤 委員 |
| ・生ごみ減量機の無料配布を検討しては | 亀田 副委員長 |

古紙回収について

- | | |
|----------------------------|-------|
| ・町内会連合会から未回収団体への呼びかけは可能 | 森川 委員 |
| ・各団体の回収を行えない理由があれば伝えてもらいたい | 森川 委員 |
| ・その他の紙類のリサイクルを検討してもらいたい | 齊藤 委員 |

ごみST集約について

- | | |
|----------------------|--------|
| ・集約と同時に新設ルールが必要では | 吉田 委員長 |
| ・ごみ出し困難者への対策について関心あり | 森川 委員 |

ごみ減量について

- | | |
|------------------------------|--------|
| ・1人1日100グラムの減量シナリオがあるとわかりやすい | 吉田 委員長 |
| ・減量が困難な場合は、容積を減らすだけでも効果あり | 吉田 委員長 |

室蘭市一般廃棄物処理基本計画について

- | | |
|---------------------------|--------|
| ・1人何グラムよりも年間何tの方がイメージしやすい | 齊藤 委員 |
| ・人口推移は10%程度の幅を持たせて示しては | 吉田 委員長 |

その他

- | | |
|---------------------------|--------|
| ・連休中の収集休み時にごみSTへ表示があると効果的 | 吉田 委員長 |
|---------------------------|--------|

3. 議事録

開会

(省略)

議題

(1) ごみ処理・リサイクル事業の見直しについて

事務局より 資料1 「ごみ処理・リサイクル事業の見直し」
参考資料1～5を説明

<吉田委員長>

ありがとうございました。資料1では、ごみの減量について、既存の事務事業の見直し、手数料適正化など多岐にわたる説明をしていただきました。2024年10月には西いぶり広域連合の新施設の完成を予定しており、このタイミングで色々と仕組みも変えて、効率の良い収集方法の執行も出来ると良いかと思えます。

資料1では他にも様々な取り組みがありますが、令和3年から4年以内には実現していきたいということだと思います。資料1についてご質問、ご意見有りましたらお願いします。内容としては、周知・啓発の室蘭市ホームページ更新とかLINEでの自動分別案内の導入といったところからですね。皆さんは室蘭市のホームページを見たことはありますか。

<安部委員>

稚拙な質問で申し訳ありませんが、室蘭市ホームページでは、燃やせるごみ、燃やせないごみはどういうものがこういうふうにと書いてありますが、とても見づらく感じます。例えばですが、包丁を捨てたいという場合に、包丁という名前を入力するとその捨て方が表示されるような、悩んでいるものを質問したらその回答を得られる形が良いと思います。実際に、そのようなホームページも他市にはあります。導入を検討しているLINEでは、このような形になると思いますが、室蘭市のホームページもとても真面目ですごくしっかりした形になっていますが、もう少し見やすく、わかりやすい作りになっているとより良くなると思います。

<事務局>

ありがとうございます。LINEについてですが、他自治体で実施しているものについて確認したところ、誰が見ても燃やせるまたは、燃やせないごみだと区分が付くような場合には、その名称を入力しても反応しないようです。逆に判断に迷うようなものについては、燃やせるごみまたは、燃やせないごみですといったような案内が表示されるようなシステムになっているようです。誰が見ても明らかな燃やせるごみ、燃やせないごみについても案内するように設計するとなると、それら1つ1つを入力するというものすごい数の作業が必要になります。

<安部委員>

実際にそれを実現している自治体もありますよね。お金の問題で難しいのでしょうか。室蘭市ホームページについても、私達は掲載してある情報から読み取って分別できますが、あまり意識が向かないような人でも簡単に確認できるようなものにはできないかなと考え

ています。全国の他市ホームページを見たところ、色々な工夫があって、すごくわかりやすいものもありました。恐らく、設計などにお金がかかるとは思いますが、検討をした方がよいと思います。

<吉田委員長>

例えば札幌市だと、あいうえお順に項目が並んでいて、「あ」を選択するとさらに沢山の項目が表示され、自分の探したいものを探す事ができるようになっています。LINE ももちろんそうなのですが、室蘭市ホームページも自分の探したいものを探しやすい様な仕組み、例えば、あいうえお順であったり記号から表示であったりといったものから見つけ出せるとわかりやすいですね。恐らく、札幌市も相当費用をかけて実施しているとは思いますが。

「あ」だけでも20項目くらい表示されるようになっています。推測ですが、「あいうえお」毎に20~30 ぐらいの項目があり、全体では1,500 とか2,000 ぐらいの項目があると思いますが、これらを全部作るのではなく、昔のラジカセ等のわかりにくいものに限って表示するようにして、小型家電のページに誘導するといった方法が効果的かもしれません。

LINE については、使うターゲット層が少し狭いと感じています。室蘭市ホームページは広い層に見られているので、室蘭市ホームページの分別の仕組みを検討課題の1つとして挙げたいと思います。他に何かご意見はありますでしょうか。

<齊藤委員>

第4回検討委員会で事務局から話がありました生ごみ処理機を購入してみました。4月から7月までデータを取りましたので、それを皆さんに見ていただきたいと思い、資料を用意しましたのでお配りします。

4月から夫婦2人で使用してみましたところ、生ごみが大体7割から8割の減量になりました。これは室蘭市一般廃棄物処理基本計画で1日48グラム減量となっており、これに結構匹敵するような結果となりました。事例ですと、一番最初の4月6日では生ごみの重量が275グラムですが、これを乾燥すると28グラムとなりました。5月からは乾燥時間も追加し、9時間乾燥を行った5月9日では、465グラムが120グラムまで減量されました。電気代は27円かかりました。これで4ヶ月やりますと、夫婦2人で17,664グラムの生ごみが、3,722グラムに減り、13,942グラムの減量となりました。これを1年間やると、およそ42キログラムの減量となります。減量目標である1人1日48グラムは年間17キログラムですので、2人だと34キログラム。減量目標にほぼ匹敵する減量効果が得られましたので、ぜひ購入助成を考えていただければと考えています。

私が購入した物は消費税込みで20,000円程度でした。先ほど、事務局から説明のあった、半額を助成として10,000円くらいの助成をしますと、購入に繋がり結構な減量になると思います。実際に使用してみても、臭いや音もあまり気になりませんでした。前回の検討委員会で森川委員が言っていました、500ミリリットルのペットボトルぐらいの生ごみを一絞りすると、約200グラムの水分が減るということもあり、そういうことも含めて検討して頂きたいと思います。

<吉田委員長>

ありがとうございました。今ちょうどご紹介いただいたので、私からお聞きしたいのですが、有料化が始まった頃に、事業所で生ごみを入れるような電動の大型のタイプが結構出ていましたが、ずっと続けるというのが非常に難しく、機械が故障するとそのタイミングでやめてしまうという事があり、生ごみ減量機はずっと続けるというのがポイントになるかと思っています。普通、生ごみは臭いので早く出したいと考えるかと思いますが、実際に

使用してみて、家でごみを出す頻度が減ったといった影響はありましたか。

<齊藤委員>

夏場の生ごみは特に臭いがするものですが、乾燥させてしまえば2週間に1回ぐらいの排出でもあまり臭いが気になりませんでした。今後ごみ袋の値上げとなった場合も、費用対効果を考えると、電気代は多少かかりますが、確か5年から10年くらいは保障されていますので、ごみ袋の減容にもなりごみ袋代があまりかからないで済むのかなと考えています。事務局では来年の3月か4月から助成と考えているようですので、そのあたりも考慮していただけますようお願いしたいと思います。

ちなみに、私たち夫婦2人ですので、小さいものを購入しましたが、5,000円足すことでもう少し大きいものを購入できます。こちらについても検討してもらいたいと思います。

<吉田委員長>

今の生ごみ処理機の話ですが、室蘭市としては思い切った10,000円ぐらいの助成と相当大きなものになっています。ごみ全体の減量化の話で、実は容積を減らすことは齊藤委員からもありましたように非常に重要なことです。容積が減ると、排出の頻度が少なくて済む、もしくは小さなごみ袋で済むようになり、ごみステーションに入れる体積が減ります。そのため、見た目にも減りますし、1週間に2回だったのが1回で済むようになる、ごみ袋の数自体も減るといった効果が期待されます。なので、是非そういう良い事例として継続的にやっていただけるような仕組みを考えたいと思います。実際に4ヶ月やった例を見せていただきありがとうございます。

<西畑委員>

齊藤委員から、生ごみを乾燥させたという非常に貴重な意見がありました。私も昨年からは排出する生ごみ量を1年間チェックしてきました。年間で137キログラム発生していました。月で平均しますと約10キログラム出ています。昨年の検討委員会でも申し上げましたとおり、水切りだけじゃなくて、コンポスト含めて肥料にすることで、市内で活用できれば大きな減量に繋がると思います。コンポストはアパートに住んでる人だとなかなか難しいですが、一戸建ちの方とかにやっていただけるならば、1人1日50グラムという目標も、簡単に達成できると考えております。

また、参考資料1で、購入助成の効果ということで、北見市が年間32kgの削減になると試算しているとありますので、これをベースに計算して目標達成に向けて細かいところでの施策が必要になるかと思えます。各市のごみ減量方法について調査してもらい、それらを見てみますと、ごみ問題について王道は無いと感じました。各自治体が様々な観点から試行錯誤しながらごみ減量に励んでおり、こういう実態を尊重して削減に努めていくべきだと考えました。

<森川委員>

生ごみ処理機の購入助成について、各市の実態を表で見せてもらいましたが、助成を受けている人が少ない印象を受けました。ほとんどが、6件や10件だったりという状態で進みますので、室蘭市で助成制度を設けたときに果たしてどのぐらいの人が助成を利用するのか、効果的に見てどうなのかなと思ひ、危惧したところになります。

また質問としまして、資料1の古紙類についてですが、先ほど事務局から参考資料4の室蘭市ホームページの作成、広報6月号に掲載した古紙回収団体への呼びかけ等の説明がありました。この各団体や町内会で実施している集団回収について、我々町内会連合会

から集団回収参加への呼びかけもできると考えています。事務局で現在古紙回収を行っていない団体や町内会のできない理由や参加にあたり障害となっていること等を把握してましたら、それを示してもらえれば、町内会連合会として協力したいと思いますので、よろしくをお願いします。

それから、既存の事務事業の見直しのごみステーションの集約についてです。資料では集約方針作成中であり、町内会と協議予定となっておりますが、これは、今どの辺までできているのか、いつ頃決定して町内会や市民にお示しいただけるのか、現在の進捗について教えて頂きたいと思います。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。まず古紙回収団体についてですが、今回行ったアンケートは現在回収を行っている団体の詳細な回収情報について把握し、市民に周知することを目的として実施しました。そのため、現在回収を行っていない団体への確認というのは、特に行っておりませんでした。一方で、今回の調査によりどこの団体がやっていて、どこの団体がやっていない、というのは把握できました。その中で、回収している団体毎に地区を塗りつぶしていったときに回収を行っていない空白地域が判明しました。先ほど参考資料4でご説明したとおり、回収団体の対象エリア外でも受け入れますよという団体があり、これらが近くにあればそちらをご案内することもできますが、そういう団体が近くに無い地区も明らかになってきていますので、今後はそういった地区の団体に直接お願いしに行くことも必要であると考えております。そこで、森川委員が町内会連合会からご参加いただいておりますので、今後その件についてもご相談をさせていただければと考えておりますので、その際はよろしくお願いたします。

次に、ごみステーションの集約方針についてですが、今この場で詳しくご紹介できるような所までは至っておりません。基本的には、個人が設置されている、1件ずつ家の目の前に置いてあるようなところをターゲットとして、集約を図っていきたいと考えております。それを例えば、子どもが市内の全ステーションの状況を確認してやるのか、それとも地域の実情をよくご存じである、その町会の方お願いするのか、というところも含めて、今後ご相談させていただきたいと考えております。

<森川委員>

ごみステーションについてですが、町会で管理しているところと、町会ではなく個人でステーションを設置しているところがあります。特に高齢者に多いと思うのですが、一軒一軒玄関前に置いていたところもあります。こういった個別回収だと収集業者も大変なので、ごみステーションに集約してもらえれば良いと思います。この前の話になりますが、新築の家が建ち町会に入ってもらおうと考えているうちに、玄関横にごみステーションが置かれていました。こういったときに、室蘭市から指導することも難しくなっていることがいたし返しなど感じています。

ごみ出し困難者については、町会や民生委員が連携をとりながら対応している。室蘭市の高齢率は40%となっており、独居老人や10メートルも運べないという方や、途中で倒れてしまう場合もあり、これらへの対応を切実にお願いしています。特に、蘭西地域は高齢化率が50%前後となっており、さらに山坂が多い地域となっています。ごみステーションの集約方針はここに関わる部分であるため、非常に関心があります。

<吉田委員長>

ありがとうございました。古紙回収の空白地域があるということで、これを埋めるため

に町内会連合会と連携してぜひ実施して頂きたいと思います。ちなみに町会への統一した回収ルールはあるのでしょうか。どうしたら回収しやすい、どのようにしたら回収を始める事ができるのかとかといった質問があった際に、市ではどのように対応されるのでしょうか。

<事務局>

市で作成している古紙回収の実施団体向けの手引きがあります。実施団体向けの資料になりますが、いつ、どのように集めるのか記載してあり、また室蘭市内の資源回収業者が11社ありますので、それらへの連絡先など、その手引きに沿って説明しています。

<吉田委員長>

回収業者の連絡先であるとか、集団回収の拠点、全体のマップ、ルールなどの情報を室蘭市ホームページに掲載できるようならぜひお願いします。また、古紙回収についてのページは少し見づらいように感じますので併せて整備していただきたいと思います。

ごみステーションについて気になるのは、アパートが建った際に新設のルールはあるのでしょうか。例えば、新興住宅地では20軒につき1箇所とかですね。

<事務局>

まずは、既存のごみステーションを使用して頂けるようにお願いしています。ただ、新興住宅地ですとたくさん家が建つので、既存のごみステーションだと溢れてしまう可能性があります。そのような場合は、新設として対応しています。

<吉田委員長>

既存のごみステーションの利用は、設置される方が町会に聞きに行くのですか。

<森川委員>

最近、知利別などの新興住宅地には60軒近くの新設が建っているが、その場合は建設者が義務的に2~3箇所のごみステーションや街路灯をつけ充実された形になっています。その地区が町内会に加入しない場合や、新たに自治会を作ることがあり、町内会連合会としては悩ましいところではありますが、きれいに整備されているのであればそれはそれで問題ないのかとも思います。他にも、新しいアパートが建つと立派なごみステーションも設置されています。

<吉田委員長>

既存の見直しと新設についてのルール作りは必要であると考えています。何軒に対して何箇所の設置が適切なのかが大切になります。ごみステーションの集約に合わせて、新設のルールを追加することで、新築の家の前に置かれてしまうという状況を改善できるのではないかと思います。他に質問はありますか。

<安部委員>

食品ロス削減策としてフードドライブなどを検討中とありますが、市としてどのように考えているのでしょうか。

<事務局>

現時点では、昨年10月に食品ロス削減に関する法律が制定され、庁内で横断的な取組

が必要だと考えています。これは環境課だけでなく市全体で取り組む必要があるため、庁内会議を進めているところです。資料1に掲載したフードドライブについては、10月が食品ロス削減月間と位置づけられていますので、イベントを開催して少しでも食品ロス削減を進めていきたいと考えています。また、先程の庁内会議においても、他部署での取組も確認していこうと考えています。

<安部委員>

他にも、資料1に出前講座の実施とあり、先ほども広報むろらん9月号に出前講座についての記事を掲載予定という話もありましたが、出前講座の内容や話の方向性などはもう決まっているのでしょうか。出前講座では、齊藤委員や西畑委員の生ごみの実績について話していただけると効果的だと思います。

<事務局>

広報むろらん9月号にまち作り出前講座を利用してくださいという記事を掲載する予定です。出前講座の対象は町内会に限らず、職場や小さな団体や集まりも対象としています。テーマとしてはごみの減量に関する事、特に室蘭市の現状の課題やその解決に向けた取組を皆さんでやっていきましょうという内容で考えています。他にも、食品ロス削減や近年問題になっているプラスチックスマートなど、要望していただいた内容について説明を予定しています。

<安部委員>

出前講座の時に、他市でやっているように生ごみ減量機を貸し出したり無料で配布してもらえる取組などの新しい挑戦があると効果的だと思います。他にも、市として何日はフードドライブをやっていますというような大きな取組を実施していただければアナウンス効果や、促進効果があるのではないかと思います。

<吉田委員長>

出前講座も同じだと思うのですが、広報を見てみると1人1日100グラム削減の目標が示されており、生ごみ処理機を使えば達成できる可能性が十分あることも齊藤委員の結果からわかりました。そこで、個人がどうやれば100グラム減らせるのかという、各家庭での具体的なシナリオを作成して出前講座の時などに紹介してもらえると、紹介を受けた人がこれならできそうだと感じてもらえるのではないかと思います。その他、ご意見がありましたらお願いします。

<菊池委員>

7月の4連休の時、近所のごみステーションに収集休みのカードが掲示されていました。その効果もあって収集休みの期間中に間違っただけで出されたものはなく、カードも連休後にはちゃんと無くなっており、非常に素晴らしい対応でした。他にも、先日の新聞記事で見たのですが、お寺でこれまで処分するだけだった納骨堂のお供え物を市内の社会福祉団体に寄付する活動がありました。とてもよい活動であり今後も継続してもらいたいと思います。一方で、新型コロナウイルスの影響か、廃プラスチック用のピンクの袋がいつもよりごみステーションに溢れている印象を受けます。プラスチックの減量は個人だけではどうにもならないものなので、消費者だけでなく、お店などの協力も必要だと思います。

<吉田委員長>

カードは市で掲示したわけではなく、収集作業員が掲示したのかもしれませんがね。

<事務局>

連休前に収集休みについて問い合わせが何件もあり、その中でカードなどを表示しようと考えていますという話もありました。

<吉田委員長>

私のところでは、収集休みの日には普段の3分の1位の量が排出されていました。これの改善に繋がるカードのようなツールは良い取組ですね。

他に、お話にありましたように新型コロナウイルスの影響で家で過ごされる方が多くなっています。石橋委員に聞きたいのですが、店舗で容器包装の減量というのはどのようなことをやっているのですか。

<石橋委員>

現場の詳細は店舗レベルなので確認しないとわからないです。

<吉田委員長>

コロナの状況がいつまで続くのかわかりませんが当面は続くものと予想されますので、販売される事業所さんとの連携も必要になるのかなと思います。山内委員からなにか意見や感想はありますか。

<山内委員>

連休中の収集休みの日にごみを出すなという広告は、広報や新聞等からのお知らせがあったので知っていました。一方でこれが守られていないことから、見てない人も多いという事が実証されたと思います。いくら啓発しても見てもらえなければ守られません。

話は変わりますが、私は廃プラスチックを細かく刻んでから排出しています。この方法だと、2か月くらいで20リットル1袋で済んでいます。

<吉田委員長>

プラスチックのパッケージやトレイも刻んでしまえば、平らになります。ごみの減量とは重量のことだけでなく、容積を減らすことも含まれています。大きさを減らすことで収集頻度の低下にも繋がります。先程の出前講座でも、重量を減らすのが難しくても、容積の減量をする工夫を伝えられると効果的だと考えます。最後に、亀田副委員長から何かあればお願いします。

<亀田副委員長>

聞きそびれていたのですが、生ごみの減量策について、参考資料1の他市アンケートで、生ごみ減量機・水切り器について3市が無料配布しているとありますが、具体的にどのようなことをしているのか教えて頂けないか。

<事務局>

参考資料②に各市の食品廃棄物削減の取り組みについてまとめてあります。この中で、北見市は生ごみ水切り器を無料提供、名寄市は段ボールコンポストを50組無料配布、千歳市はダンボールを利用した生ごみ堆肥セットを配布していると回答をいただいています。

< 亀田副委員長 >

ダンボールを使った生ごみ減量機の配布が 2 市ですね。北見市の水切り器というのはどういふものですか。

< 安部委員 >

1 個 1,000 円程度の、生ごみを押しつぶすものではないでしょうか。

< 事務局 >

他市アンケートでは取り組みについてのみ確認しており、北見市の水切り器がどのような構造のものかまでは確認していませんでした。

< 亀田副委員長 >

アパートで一人暮らしをしている人や、学生などに向いていると思いました。そのようなものを含めて提示し、家庭構造などを考えて使えるものを使うようにすることで多くの市民が自分に合ったもので参加できるので、安さ上がりの施策の 1 つとして検討してもらいたいと思います。

< 齊藤委員 >

提案になりますが、資源物について町会や学校等で回収を行っていますが、150 くらいある町会全体の 60% 程度しか実施していません。これを各団体をお願いするなどして実施団体数を増やしてもらいたいと思います。ダンボール・雑誌・新聞紙以外にもその他の紙としてダイレクトメール、窓付き封筒、レシートやコーティングされた紙など、リサイクルにまわらないものが多くあります。そのような紙類を集める方法を考えると、体育館や公共施設からリサイクルとして出す人が増えてごみ減量につながると考えていますので、ぜひよろしくお願ひしたい。

< 吉田委員長 >

ご提案ということでしたが、たしかにその通りだと思います。宅配便など多くの方が利用していますので、その減量に繋がると思います。全体の目標について確認し、個々のところでは少し工夫をしていただきたいと思います。

(2) 室蘭市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて

事務局より 資料 2 「室蘭市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて」
参考資料 6 「室蘭市一般廃棄物処理基本計画」 を説明

< 吉田委員長 >

ちょうど一般廃棄物処理基本計画は 5 年に 1 回の見直し時期であり、そのことについて説明していただきました。この計画は以前に、私と亀田副委員長も当時の審議会に参加して、とりまとめたものになりますが、5 年前のものであり、新施設が決まり、今回いただいているような意見を反映させた形で新たな目標を設定し、この検討委員会で審議したいということです。この件について、ご意見などありましたらお願いします。

<齊藤委員>

令和元年の目標が1人1日479グラムで、現在実績が530グラムとなっています。これでは、個人が51グラム減量するだけでいいと思われてしまい、あまり危機感を持って取り組んでももらえないのではないかと懸念しています。そうならないためにも、全体としての目標を掲載するべきではないかと思えます。

<事務局>

以前の計画では、ごみの総量で目標を示していましたが、併せて掲載していた人口の予想推移が予想よりも減少してしまい、1人あたりのごみ量に大きな変化はないが、全体としては人口が減ったため排出量が減少し、目標を達成しているように見えてしまうといった事態になりました。その反省から、1人あたりの数字を示すようになりました。ただ、齊藤委員からご意見のありましたように、見せ方をしっかり検討したいと考えています。

<西畑委員>

人口予想についてですが、現在の計画と実際の人口では大きくかけ離れています。ある程度、直近の人口予想が判明した段階で、都度計画を修正する必要があるのではないのでしょうか。そうしないと、実態と乖離してしまいます。

<吉田委員長>

5年に1度の見直しということで説明がありましたが、より細かいタイミングでの修正も必要ではないかという意見でした。

<事務局>

計画だと令和2年の人口は86,000人と予想していたが、現状82,000人となっており、4,000人も乖離が生じています。そのため、どこかのタイミングでの見直しというのは必要だと考えています。一方で、国からはおおむね5年毎に見直すようにと通知があり、計画期間も10年ということなので、5年に1度の見直しとしています。

<吉田委員長>

新中間ごみ処理施設も20年という計画期間があるが、こちらも同様であると言えます。見直しのタイミングとして、毎年なのか、3年や5年に1度なのかを決めるのは難しいですが、例えば予想よりも10%増減した際の目標値など、幅を持たせて示すことも検討する必要があると考えています。この委員会としては、次回以降中間見直しについて検討することになりますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日の議題を終了し、事務局にお返しします。

<事務局>

本日はお忙しい中ご参加していただき、また貴重なご意見を多く頂きありがとうございました。次回は11月の開催を考えておりますので、よろしく願いいたします。